

GP-COM II

画面データバックアップソフト

オペレーションマニュアル

はじめに

このたびは、(株)デジタル製GP-COMⅡ Pro-face®画面データバックアップソフト(以下GP-COMⅡと略します)をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

このプログラムは(株)デジタル Pro-face® GPシリーズ(以下GPと略します)の画面データのバックアップおよびメンテナンスのために用意されています。不慮の事故に備えて、必ず画面データをバックアップするようにしてください。

シリアル通信(RS-232C)を通して、画面データをパーソナルコンピュータ(以下パソコンと略します)とGPとの間で転送します。

また、バックアップした画面データをインテルHEXフォーマットのデータファイルに変換し、ROMライター転送します。したがって、GPとは切り離れた状態で、GPの画面データをROM化することができます。(GP410, 510シリーズに限る)

GP430は、GP410,510シリーズの上位互換機種です。したがってGP410,510シリーズで作画した画面データをGP430で使用する場合は、GP-COMⅡを用いてGP430用に変換したのち、ご使用ください。

このプログラムを実行するためには、GPを「パソコンとのデータ転送」状態にしておいてから、パソコン側でデータの転送プログラムを実行させます。


ご使用になる前に本書をお読みいただき、本ソフトウェアを十分に生かして、正しくご使用くださるようお願いいたします。

<本書の見方>

それぞれのソフトウェアに対する違いは、以下のように示します。

	GP-COM のみの仕様
	GP-COM II のみの仕様
	両方式共通仕様

本書では、GP410,510シリーズのことを合わせてGP410と表しています。

本書では、RETURNキーを  と表しています。

本プログラムは、(株)デジタルと(株)アクトが著作権を有する独自の通信方式を採用しています。

MS-DOSは米国マイクロソフト社の登録商標です。

<お断り>

- 1) 本書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。
- 2) 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 3) 本書の内容について万全を期して作成いたしました但、万一誤りや記載もれなど、ご不審な点がありましたらご連絡ください。
- 4) 運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

も く じ

1. 動作環境	1
2. 製品の構成	1
3. フロントメンテナンスレベル変換ユニットの接続方法	2
4. インストール (起動準備)	3
■ GP-COM II をシステムディスクにコピーします	
■ パソコンのインターフェイスドライバの組み込みを行います	
■ 環境の設定を行います	
■ 論理装置の設定を行います	
5. ケーブル図	5
■ パソコン(PC-9801)とGP510間ケーブル	
■ パソコン(PC-9801)とGP410間ケーブル	
■ パソコン(PC-9801)とGP430間ケーブル	
■ パソコン(PC-9801)とROMライター(PKW-1100)間ケーブル(RS-232C仕様)	
■ パソコン(PC-9801)とROMライター(PKW-1100相当品)間ケーブル(セントロニクス仕様)	
6. 用語	7
■ 画面ファイル	
■ タイトル	
■ 保存ファイル名	
■ HEXファイル名	
■ パス名	
7. デフォルト値	9
■ GP-COM コマンド	
■ GP-COM II コマンド	
8. メッセージ一覧	11
9. 起動手順	14
■ GP本体でシリアル通信(SIO)の初期設定をしてください	
■ GPを「パソコンとのデータ転送」画面にします	
10. 起動メニュー	16

11.GP-COMメニュー画面	17
-----------------------	----

12.GP-COMメニュー	18
---------------------	----

- 終了
- 画面ファイルの一覧
- メモリーカードの残量
- 画面ファイルの削除
- 画面ファイルの読み込み(GP410→パソコン)
- 画面ファイルの比較
- 画面ファイルの書き込み(パソコン→GP410)
- 保存ファイルの内容表示
- メモリーカードのバックアップ(GP410→パソコン)
- メモリーカードの比較
- メモリーカードのリストア(パソコン→GP410)
- HEXフォーマットへの変換
- HEXファイルの転送
- ディレクトリーの表示
- SIOの設定

13.GP-COM II メニュー画面	33
---------------------------	----

14.GP-COM II メニュー	34
-------------------------	----

- 終了
- 画面ファイルの読み込み(GP430→パソコン)
- 内部記憶のバックアップ(GP430→パソコン)
- 画面ファイルの書き込み(パソコン→GP430)
- 内部記憶のリストア(パソコン→GP430)
- 画面ファイル単位の変換(GP410→GP430)
- メモリーカード単位の変換(GP410→GP430)
- ディレクトリーの表示
- 画面ファイルの一覧
- 画面ファイルの比較
- 内部記憶の比較
- 内部記憶の残量
- 画面ファイルの削除
- バージョン問い合わせ

1. 動作環境

機種: PC-9801シリーズ
OS: MS-DOS Ver 3.10以上
メモリ: 384K byte以上
ディスクドライブ: 1ドライブ以上(ハードディスクでも使用可能)
ROMライター: PKW-1100(アバール社製)
ROMライターアダプタ: BA512-A(フジソク社製)

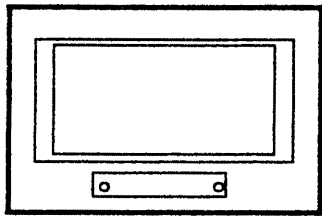
2. 製品の構成

GP-COM II のパッケージには以下のものが含まれています。

マスターフロッピーディスク	2枚 (3.5/5インチ2HD)
GP-COM II オペレーションマニュアル(本書)	1冊
フロントメンテナンスレベル変換ユニット	1本
ユーザー登録カード(必ずご返送ください)	1枚
ソフトウェアトラブルレポート	1枚

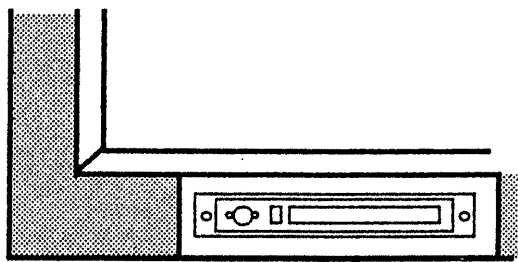
3. フロントメンテナンスレベル変換ユニットの接続方法

下記のように接続してください。



GP-430本体 (GP430-EG11)

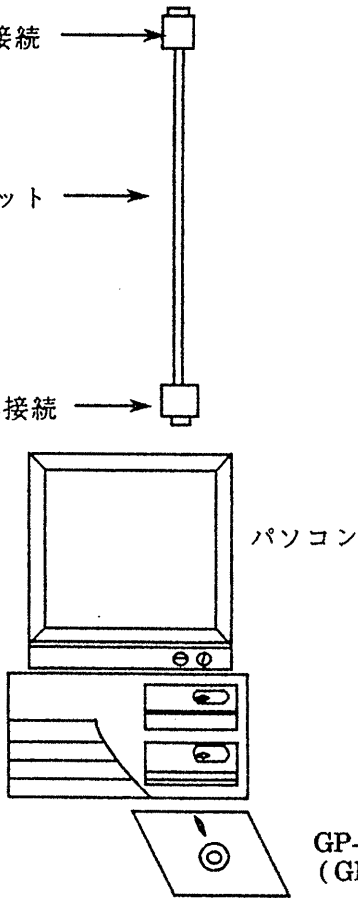
差し込み口保護用フタを
はずします。



キーボードコネクタへ接続

フロントメンテナンスレベル変換ユニット

パソコンのRS-232Cコネクタへ接続



パソコン

GP-COM II
(GP430-SU01)

4. インストール(起動準備)


GP-COM II を起動させるために、以下の手順にしたがって準備を行ってください。

----- [注釈] -----

システムディスク:MS-DOSのシステムが入っているフロッピーディスクのことです。
マスターディスク:GP-COM II のマスターフロッピーディスクのことです。

■ GP-COM II をシステムディスクにコピーします

コピーは、Aドライブにシステムディスクをセットし、Bドライブにマスターディスクをセットしてから

```
A>COPY B:*.* A: 
```

と入力してください。

GP-COM II の実行プログラム名は、GPCOM2.EXEです。

システムディスクの容量が多くコピーできない場合は、不必要なファイルを削除するか、GP-COM II 用のシステムディスクを作るとよいでしょう。
GP-COM II は最低限以下のようなファイルがあれば実行できます。

```
COMMAND.COM, SPEED.EXE, RSDRV.SYS, PRINT.SYS,  
CONFIG.SYS, AUTOEXEC.BAT
```

GP-COM II には、以下に示す実行ファイルがあります。

```
GPCOM2.EXE, GPCOM.EXE, GPCOMM.EXE, MTRCVT.EXE,  
MFCVT.EXE, GPM_A2B.EXE
```

これらの実行ファイルがそろっていないとGP-COM II は動作しません。また、これらのファイルは単独で使用することはできません。(GPCOM2.EXEは除く)
マスターディスクは大切に保管しておいてください。

■ パソコンのインターフェイスドライバの組み込みを行います

パソコンのルートディレクトリのCONFIG.SYSの中に

```
DEVICE=A:¥RSDRV.SYS  
DEVICE=A:¥PRINT.SYS
```

を追加してください。

ただし、インターフェイスドライバ(シリアルI/F:RSDRV.SYS,パラレルI/F:PRINT.SYS)がシステムディスクのルートディレクトリに存在する場合には限りません。

■環境の設定を行います

MS-DOSのコマンドを実行するために使用するコマンドプロセッサ (COMMAND.COM)が存在するディレクトリを設定を行ってください。

また、GP-COM IIの実行コマンド、SPEEDコマンドが存在するディレクトリをPATHコマンド(外部コマンドを探すディレクトリを設定するコマンド)で設定してください。

例えば、COMMAND.COM、GP-COM、SPEEDコマンドがシステムディスクのルートディレクトリに存在した場合、パソコンのルートディレクトリのAUTOEXEC.BATの中に

```
SET COMSPEC=A:¥COMMAND.COM
SET PATH=A:¥
```

を追加してください。

■論理装置の設定を行います

通常は設定する必要はありませんが、もしMS-DOSの論理装置の割付を変更されている場合は、論理装置と物理装置の割付を

```
コンソール入力: キーボード
コンソール出力: ディスプレイ
補助入力: RS232C-0
補助出力: RS232C-0
プリンタ出力: プリンタ
```

に設定してください。

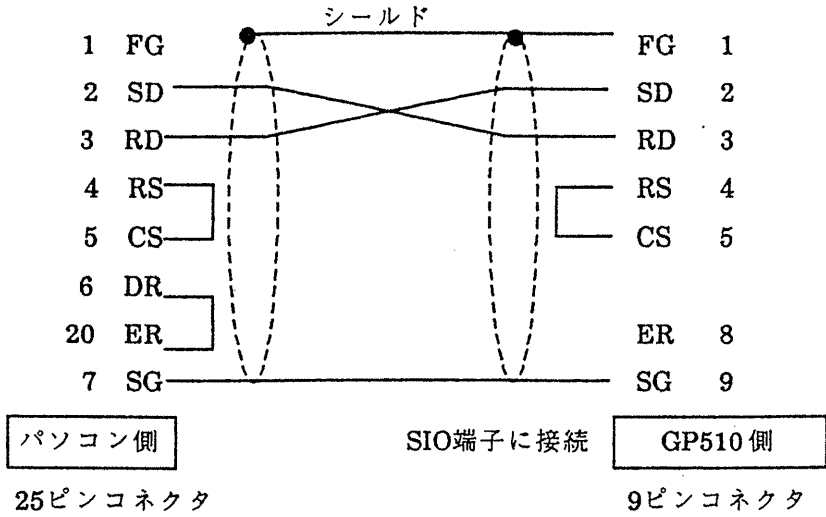
例えば、ASSIGNコマンドがシステムディスクのルートディレクトリに存在した場合

```
A>ASSIGN CI =KD
A>ASSIGN CO =SN
A>ASSIGN AI =R0
A>ASSIGN AO =R0
A>ASSIGN PR =PR
```

で割り付けられます。

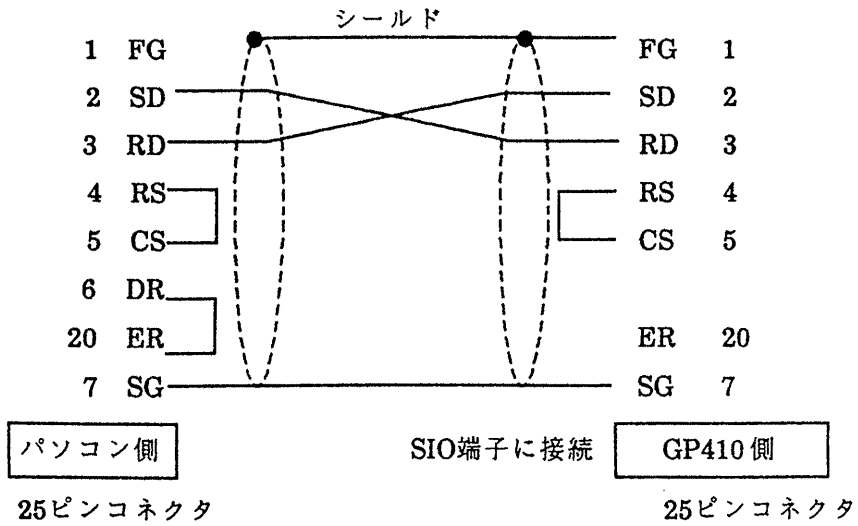
5. ケーブル図

■ パソコン(PC-9801)とGP510間ケーブル



パソコン側、GP510側、各々設定をXON/OFF制御にて行う。

■ パソコン(PC-9801)とGP410間ケーブル

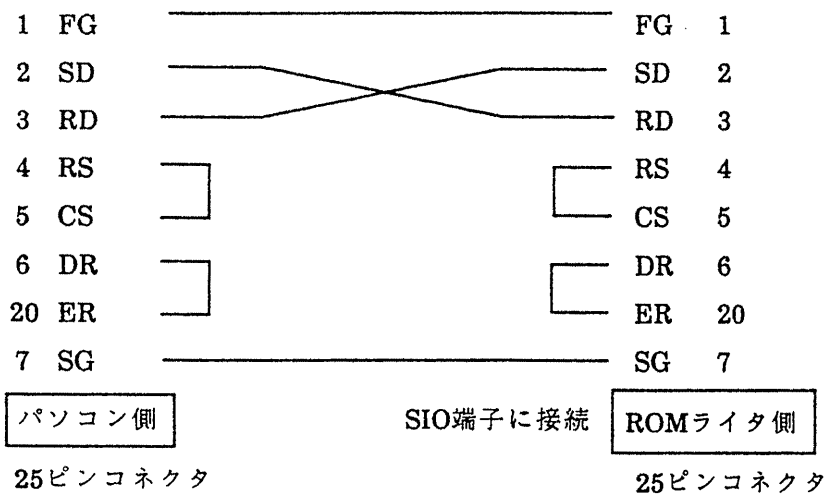


パソコン側、GP410側、各々設定をXON/OFF制御にて行う。

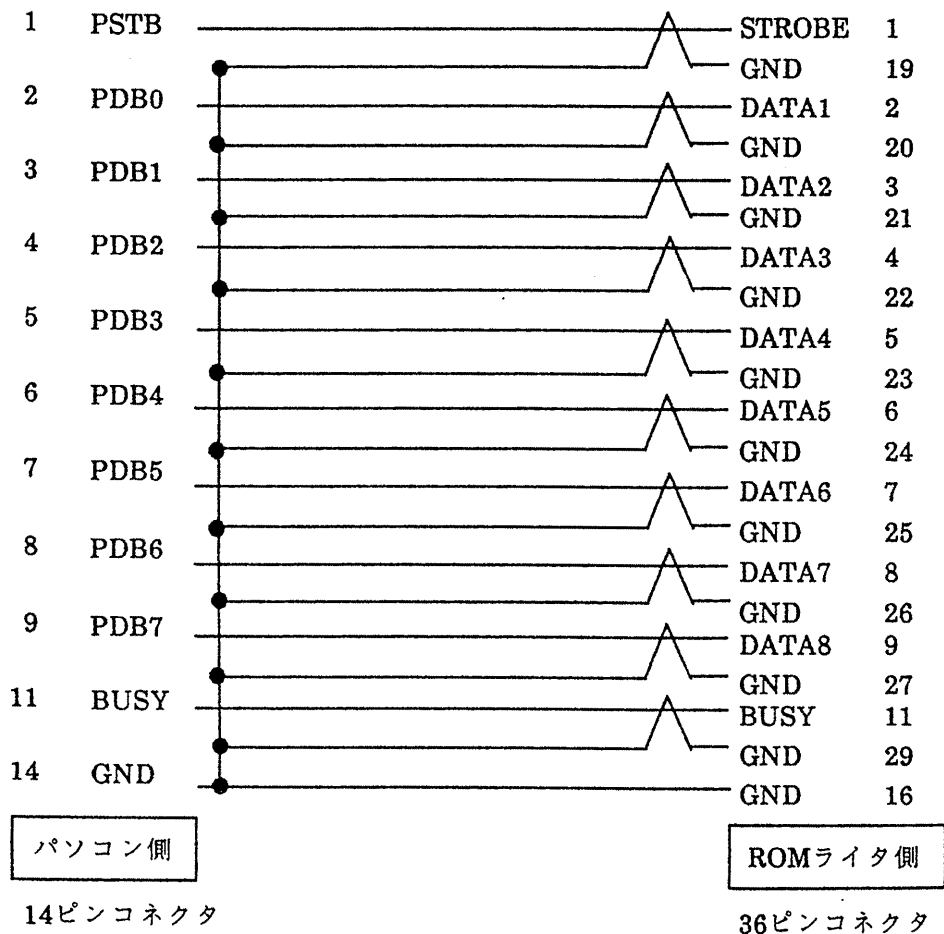
■ パソコン(PC-9801)とGP430間ケーブル

付属のフロントメンテナンスレベル変換ユニットを使用します。

■ パソコン(PC-9801)とROMライター(PKW-1100)間ケーブル (RS-232C仕様)



■ パソコン(PC-9801)とROMライター(PKW-1100相当品)間ケーブル (セントロニクス仕様)



6.用語

ここでは、GP-COMおよびGP-COM II 上で使われている用語について説明します。

■画面ファイル:

GPの画面のことです。

■タイトル:

GPの画面データが登録されている各画面ファイルのタイトル(30文字以内)のことです。

タイトルの先頭文字列を入力すると、指定ファイル番号の範囲内においてその共通部分をタイトルとして持つファイル(関連ファイル)のみを書き込み、読み出します。

<タイトル指定の例>

ファイル番号	タイトル
2	DATA1
3	DATA2
7	AFILE
10	BFILE
20	DATA3
21	ADD1
30	DATA4

ファイル番号を1~20

タイトルをDATA

とした場合は2、3、20のファイルだけが書き込み、読み出しされます。

■保存ファイル名:

(パソコンの)ディスクに、GPの画面データを保存するファイルの名称のことです。

階層ディレクトリ中の特定のファイルを指す場合は、そのファイル名の前にパス名を付加します。したがって、最も一般的なファイル名の書式は次のようなものです。

[<ドライブ名:>][*][<ディレクトリ名>*].....[<ディレクトリ名>*][<ファイル名>][<拡張子>]

■HEXファイル名:

メモリーカードの読み出しコマンドによってバックアップされたGPの画面データを、インテル拡張HEXフォーマットに変換する時のデータファイル名のことです。

■パス名:

階層ディレクトリ構造中のディレクトリを指す名前を「パス名」と呼びます。パス名は、ドライブ名とルートディレクトリから指定するファイルが存在するディレクトリまでの経路を¥記号で区切りながら並べたもので、次のような書式をしています。

[<ドライブ名:>][¥][<ディレクトリ名>¥].....[<ディレクトリ名>¥]<ディレクトリ名>

画面ファイル単位の保存ファイル、カード単位の保存ファイル、HEXファイルは、それぞれ内部構造が異なります。したがって、ファイルの区別がつくように拡張子を使用してください。

例) SAMPLE.GPF → 画面ファイル単位の保存ファイル
SAMPLE.GPM → カード単位の保存ファイル
SAMPLE.HEX → HEX ファイル

7. デフォルト値

各コマンドでは、以下のようなデフォルト値が設定されています。

■ GP-COMコマンド

画面ファイルの一覧	ファイル番号[1,1299]	
画面ファイルの読み込み	ファイル番号[1,1299] 保存ファイル名[SAMPLE.GPF]	*1 *2
画面ファイルの比較	ファイル番号[1,1299] 保存ファイル名[SAMPLE.GPF]	*1 *2
画面ファイルの書き込み	ファイル番号[1,1299] 保存ファイル名[SAMPLE.GPF]	*1 *2
保存ファイルの内容表示	保存ファイル名[SAMPLE.GPF]	*2
メモリーカードのバックアップ	保存ファイル名[SAMPLE.GPM]	*3
メモリーカードの比較	保存ファイル名[SAMPLE.GPM]	*3
メモリーカードのリストア	保存ファイル名[SAMPLE.GPM]	*3
HEXフォーマットへの変換	保存ファイル名[SAMPLE.GPM] HEXファイル名[SAMPLE.HEX]	*3*4
HEXファイルの転送	HEXファイル名[SAMPLE.HEX] 出力装置[AUX] サイズ[64]	*4
ディレクトリの表示	パス名[*.*]	
SIOの設定	ポート番号・ボーレート・キャラクタ長・パリティ チェック・ストップビット数Xパラメータ [R0 9600 B8 PN S1 XON]	

- *1 コマンドのファイル番号のデフォルト値は共通です。
- *2 コマンドの保存ファイルのデフォルト値は共通です。
- *3 コマンドの保存ファイルのデフォルト値は共通です。
- *4 コマンドのHEXファイル名のデフォルト値は共通です。

例)

【画面ファイルの読み込み】のファイル番号のデフォルト値を[1,1299]から[2,1299]に変更した場合、同じ*1の付いている【画面ファイルの比較】【画面ファイルの書き込み】のファイル番号のデフォルト値も[1,1299]から[2,1299]に変更されます。

■ GP-COMII コマンド

画面ファイルの読み込み	ファイル属性[*] ファイル番号[1,8999]	*1
画面ファイルの書き込み	ファイル属性[*] ファイル番号[1,8999]	*1
内部記憶のバックアップ	保存ファイル名[SAMPLE.MRM]	*2
内部記憶のリストア	保存ファイル名[SAMPLE.MRM]	*2
画面ファイル単位の変換	410保存ファイル名[SAMPLE.GPF]	
メモリーカード単位の変換	410保存ファイル名[SAMPLE.GPM] 430保存ファイル名[SAMPLE.,MRM]	*2

*1 コマンドのファイル番号のデフォルト値は共通です。

*2 コマンドの保存ファイルのデフォルト値は共通です。

例)

【画面ファイルの読み込み】のファイル番号のデフォルト値を[1,1299]から[2,1299]に変更した場合、同じ*1の付いている【画面ファイルの書き込み】のファイル番号のデフォルト値も[1,1299]から[2,1299]に変更されます。

8.メッセージ一覧

GP-COMおよびGP-COMⅡ実行中に表示される主なメッセージと、そのメッセージが表示される原因について説明します。

SPACEキーでつづき

パソコンの画面上での表示は、1度に20行までです。20行以上ある場合は、このメッセージを表示し、いったん停止します。SPACEキーを押すと続きを表示します。続けて表示すべきファイルがない場合は、SPACEキーを押すと

SPACEキーでメニュー画面にもどります のメッセージを表示します。

ファイルが見つかりません

【画面ファイルの一覧】コマンドにおいて、表示すべきファイルがない場合、もしくは【画面ファイルの削除】コマンドで、削除しようとするファイルがない場合にこのメッセージを表示します。

××××はオープンできません

保存ファイル名の指定を間違えた時、または存在しないファイル名を指定した時にこのメッセージを表示します。再度ファイル名を指定してください。

ディスクエラーが発生しました

パソコン側のメモリ容量がいっぱいになった時か、書き込みエラー時にこのメッセージを表示します。パソコンのディスクを交換するか、パソコンのディスクチェック機能などを用いて、その要因を調べてください。

××××をスキップしました

【画面ファイルの比較】または【画面ファイルの書き込み】コマンドでタイトルを指定し、ファイルを比較する上で指定タイトル名の条件と合わなかった場合にこのメッセージを表示します。

××××は一致しません

一致しません

メモリーカードに登録されている画面データと保存ファイルの内容が違う場合にこのメッセージを表示します。【画面ファイルの比較】コマンドでは、ファイル単位での比較を行うため、一致しないファイル番号も表示します。

【メモリーカードの比較】コマンドでは、ファイル単位の比較ではないため、一致しないファイル番号を表示しません。

××××はフォーマットが違います

それぞれのコマンドで、対象となるファイルの形式が違う場合にこのメッセージを表示します。

××××は書き込みできません

【画面ファイルの書き込み】コマンドで、GPのメモリーカードの容量がいっぱいになった時などに、このメッセージを表示します。この場合は、メモリーカードを容量の大きいものに変えるか、転送するデータを指定しなおしてください。

通信エラーが発生しました

コマンド実行中に、転送データに異常を検出した場合このメッセージを表示します。

シリアル通信(RS-232C)の指定、およびケーブルを確認しなおしてください。

通信できません

GPが【パソコンとのデータ転送】状態でない場合に、このメッセージを表示します。

この場合は、GPを【パソコンとのデータ転送】状態にしてください。

<8.起動手順を参照してください>

××××のデータが正しくありません

GP410の画面ファイルをGP430用に変換する時、従来の画面ファイルに異常を検出した場合にこのメッセージを表示します。
画面ファイルに異常がないかを確認のうえ、変換処理をなおしてください。

××××にこのPLCに該当しないデバイスアドレスがあります

GP410の画面ファイルをGP430用に変換する時、対象PLCが一致しないデータを検出した場合にこのメッセージを表示します。対象PLCの設定を確認しなおしてください。

9.起動手順

■ GP本体でシリアル通信(SIO)の初期設定をしてください

GPの初期設定の項でSIOの設定を行います。
 伝送速度などの設定は、パソコンとGPを同じにします。

GP-COM II が起動するとパソコンのSIOは初期値として以下のようになります。

伝送速度	:9600bps
データ長	:8bit
ストップビット	:1bit
パリティチェック	:なし
制御方式	:XON/OFF (GP430との通信時はXON/OFF NONE)

■ GPを「パソコンとのデータ転送」画面にします

メインメニュー画面で作業番号2を選択すると、『画面データの転送』メニューが表示されます。

作業番号1を選択し を入力すると、GPの画面は以下のように変わります。

GP410の場合

メインメニュー

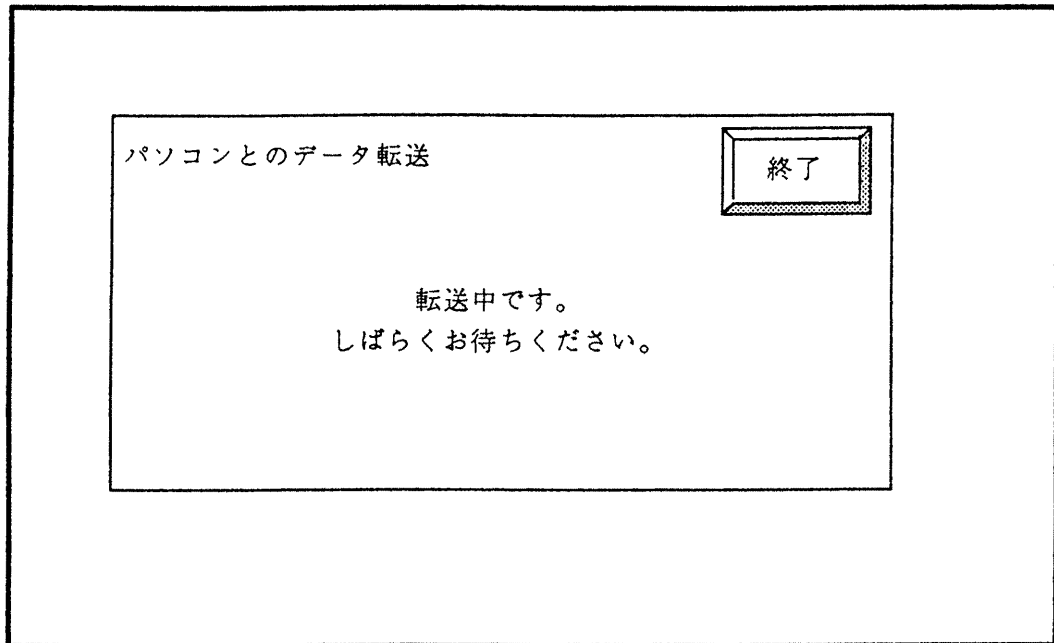
画面データの転送

1. パソコンとのデータ転送
2. インテルフォーマット出力
3. メモリーカード to メモリーカード

番号を入力してください? __

パソコン側でデータ転送のプログラムを実行してください
 PF1キーでメニュー画面に戻ります

このような状態にしてから、パソコン側でGP-COMを実行させてください。


GP430の場合

このような状態にしてから、パソコン側でGP-COM IIを実行させてください。

10. 起動メニュー

GP-COM II をインストールしたシステムディスクでパソコンを起動してください。

パソコンが起動したら

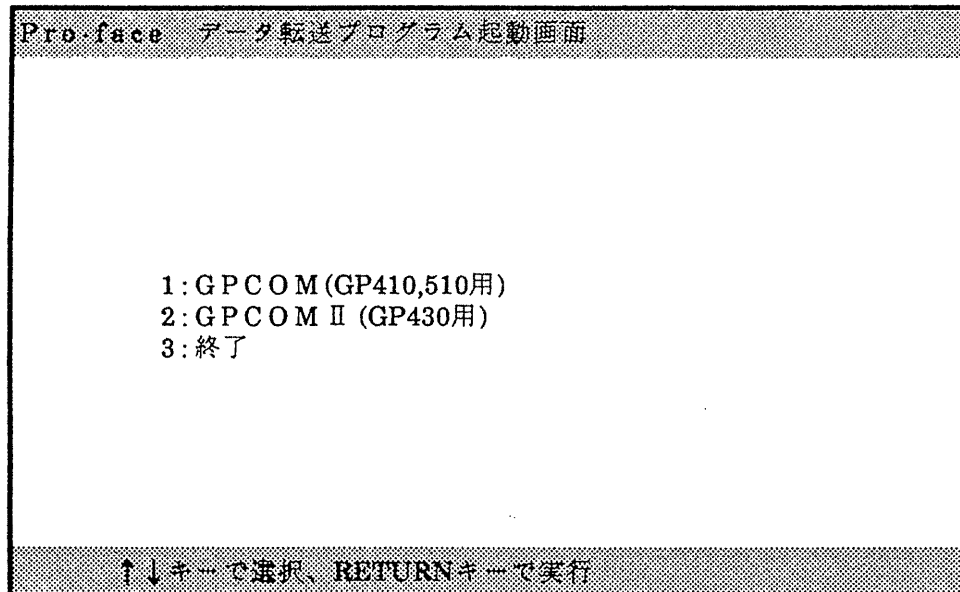
A>GPCOM2 

と入力してください。

データ転送プログラム起動画面が表示されます。

【注意】

GP-COMはGP410のデータ転送を行う時に、GP-COM IIはGP430のデータ転送を行う時に使用します。



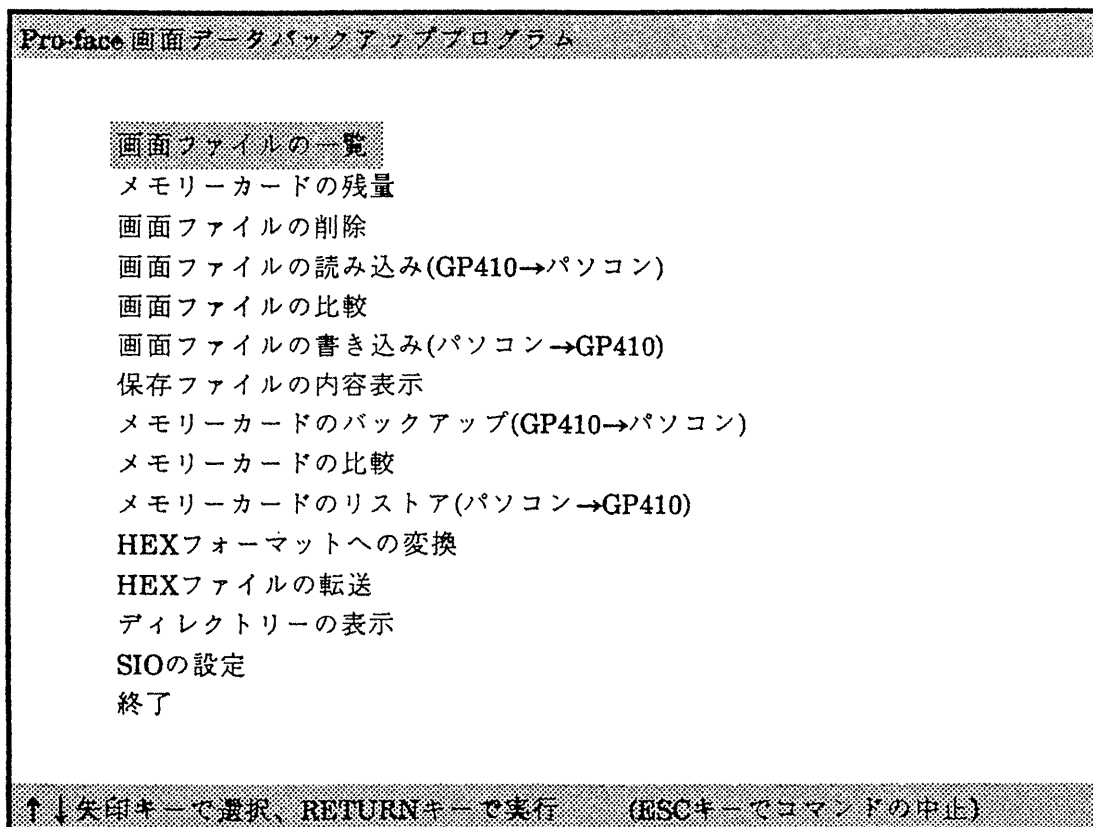
入力時にこの画面が表示されます。

カーソル(上下の矢印キー↑↓)を動かし、実行したいコマンドを選択するか、もしくは左に書かれている番号を入力し、実行したいコマンドを選択します。


(番号入力時は選択実行)

11.GP-COM メニュー画面

起動メニューでGP-COM選択によってメニュー画面を表示します。
GP410の画面データのバックアップ処理を行います。



起動メニューでGP-COM選択によってメニュー画面を表示します。
カーソル(上下の矢印キー ↑↓)を動かし、実行させたいメニューを選択します。
選択されたメニューは反転表示されます。(番号入力時は選択実行)

 の入力で、選択されたメニューが実行されます。

ESCキーを押すと、実行中のメニューを中止します。(各メニュー共通)

【注意】

コントロールキーとCを同時に押すと実行途中の場合でもMS-DOSに戻ってしまいます。
MS-DOSに戻す場合は、「終了」メニューを選んでください。

12.GP-COMメニュー

これより、GP-COMのプログラムの内容について説明します。

([]内はデフォルト値をさします)

■終了

起動画面に戻ります。

コントロールキーとCを同時に入力してMS-DOSに戻らないでください。
プログラム実行中にコントロールキーとCを同時に入力すると、データがこわれたり残ったりする場合があります。またMS-DOSに戻ってもファンクションキーガイドが表示されない場合があります。

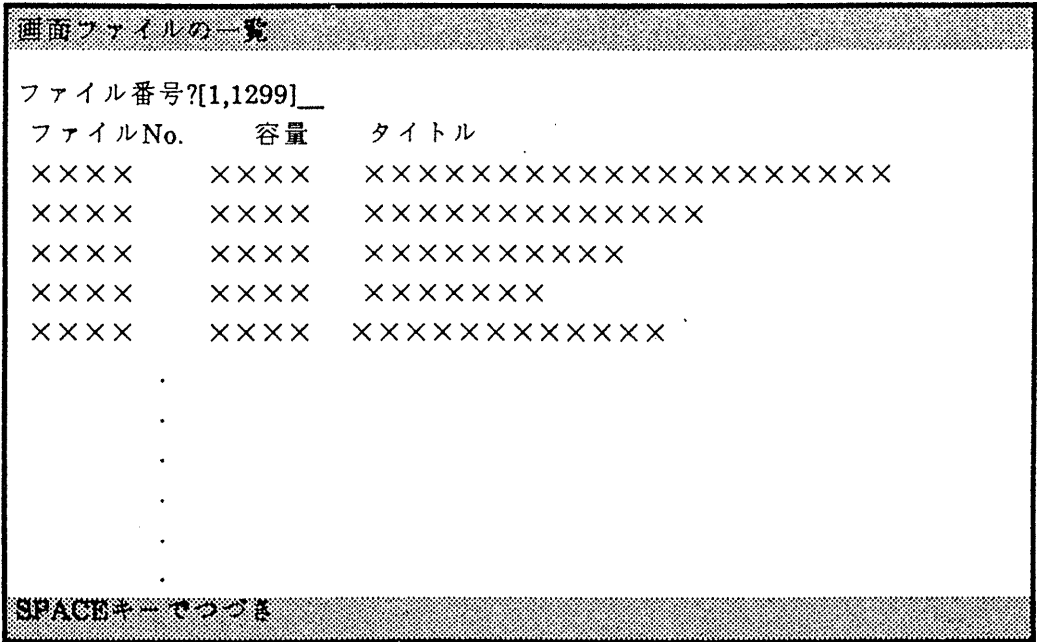
■画面ファイルの一覧



GP410のメモリーカードに登録されている画面ファイルの一覧表を表示します。


表示するファイル番号の範囲を指定することができます。

指定されたファイル番号内に存在するファイルはすべて表示されます。

ファイルの容量はバイト数で表示されます。



GP-COMメニュー画面から【画面ファイルの一覧】を選び  を入力します。
次にファイル番号と  を入力します。

 だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。
ファイル番号の設定は、開始ファイル番号のみを指定した場合、そのファイル番号を先頭にして、以降すべてが表示されます。

すべてのリストが1画面に表示しきれない場合、“SPACEキーでつづき”のメッセージを表示します。

SPACEキーを押すたびに、続きのリストを表示します。


ファイル番号	画面の種類
1 ~ 255	ベース画面
300 ~ 699	ライブラリー画面
700 ~ 999	マーク
1000 ~1199	折れ線グラフ画面
1200 ~1299	アラームメッセージ

■メモリーカードの残量

GP410のメモリーカードの残りバイト数をメモリーバンク単位で表示します。

メモリーカードの残量			
バンクNo.	残量	バンクNo.	残量
0	12775	.	.
1	15858	.	.
2	15858	.	.
3	15858	.	.
.	.	.	.
.	.	.	.
.	.	.	.

SPACEキーでメニュー画面にもどります

GP-COMメニュー画面から『メモリーカードの残量』を選び  を入力します。
メモリーカードの残量を表示します。

画面データを記憶するメモリーカードは16Kバイト単位でバンク管理されています。その使用状況を表示します。

64Kバイトのメモリーカードでは0から3、128Kバイトのメモリーカードでは0から7、256Kバイトのメモリーカードでは0から15までが実在するバンクです。
(実在しないバンクは表示されません)

■画面ファイルの削除

GP410のメモリーカードに登録されている画面ファイルを削除します。
削除するファイル番号の範囲を指定することができます。

画面ファイルの削除

ファイル番号? __
削除してもいいですか(Y or N)? __

削除しました
 ××××を削除しました (削除したファイル番号を表示します)
 ××××を削除しました
 ××××を削除しました

SPACEキーでメニュー画面にもどります

GP-COMメニュー画面から『画面ファイルの削除』を選び を入力します。

削除したいファイル番号と を入力します。

ファイル番号100を削除したい場合は100

ファイル番号100から200までを削除したい場合は100,200

次に「YES」に対応する「Y」を選びます。

GP410からの応答として削除したファイル番号を出力します。

- ・「Y or N」の入力は小文字、大文字とも有効です。
- ・Nを入力するとメニュー画面に戻ります。
- ・削除途中でESCキー入力すると実行を中止します。

ファイル番号	画面の種類
1 ~ 255	ベース画面
300 ~ 699	ライブラリー画面
700 ~ 999	マーク
1000 ~ 1199	折れ線グラフ画面
1200 ~ 1299	アラームメッセージ

■画面ファイルの読み込み(GP410→パソコン)

GP410のメモリーカードに登録されている画面データをファイル単位で読み込みます。

読み込むファイル番号の範囲とタイトルを指定することができます。

タイトルの文字列を指定して、関連ファイルだけを読み込むこともできます。

画面データをROM化する場合は、「■メモリーカードのバックアップ(GP410→パソコン)」の項をご参照ください。

画面ファイルの読み込み

ファイル番号?[1,1299] __

タイトル? __

保存ファイル名?[SAMPLE.GPF] __

オーバーライトしていいですか(Y or N)? __


××××を読み込みました


××××を読み込みました (読み込んだファイル番号を表示します。)


××××を読み込みました

××××を読み込みました

SPACEキーでメニュー画面にもどります


GP-COMメニュー画面から「画面ファイルの読み込み」を選び  を入力します。

読み込みたいファイル番号と  を入力します。

ファイル番号1から1299までを読み込みたい場合は1,1299 

次に保存ファイル名を入力し「YES」に対応する「Y」を選びます。

GP410からの応答として読み込んだファイル番号を出力します。

・  だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。

・保存ファイル名には、ドライブ名、ディレクトリ名を指定できます。指定しなかった場合は、カレント(現在の)ディレクトリを指定したことになります。(保存ファイル名については、本書「6.用語」をご参照ください)

ファイル番号	画面の種類
1 ~ 255	ベース画面
300 ~ 699	ライブラリー画面
700 ~ 999	マーク
1000 ~ 1199	折れ線グラフ画面
1200 ~ 1299	アラームメッセージ

■ 画面ファイルの比較

GP410のメモリーカードに登録されている画面データと保存ファイルをファイル単位で比較します。比較するファイル番号の範囲とタイトルを指定することができます。

画面ファイルの比較	
ファイル番号?	[1,1299] __
タイトル?	__
保存ファイル名?	[SAMPLE.GPF] __
XXXXをスキップしました	
XXXX	は一致しました (比較したファイル番号を表示)
XXXX	は一致しました
XXXX	は一致しました
XXXX	は一致しました
XXXX	は一致しません
SPACEキーでつづき	
XXXX	は一致しました
XXXX	は一致しました
SPACEキーでメニュー画面にもどります	

GP-COMメニュー画面から「画面ファイルの比較」を選び を入力します。

比較したいファイル番号と を入力します。

ファイル番号1から1299までを比較したい場合は1,1299

次にタイトルと保存ファイル名を入力します。

GP410からの応答として比較したファイル番号を出力します。

だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。

保存ファイル名には、ドライブ名、ディレクトリ名を指定できます。指定しなかった場合は、カレント(現在の)ディレクトリを指定したことになります。(保存ファイル名については、本書「6.用語」をご参照ください)

ファイル番号	画面の種類
1 ~ 255	ベース画面
300 ~ 699	ライブラリー画面
700 ~ 999	マーク
1000 ~ 1199	折れ線グラフ画面
1200 ~ 1299	アラームメッセージ

■画面ファイルの書き込み(パソコン→GP410)

GP410のメモリーカードに画面データをファイル単位で書き込みます。

画面ファイルの読み出し操作によってパソコンにバックアップしたファイルを、GP410にもどすときに使用します。

書き込むファイル番号の範囲とタイトルを指定することができます。

画面ファイルの書き込み	
ファイル番号?	[1,1299] __
タイトル?	__
保存ファイル名?	[SAMPLE.GPF] __
××××を書き込みました ××××を書き込みました (書き込んだファイル番号を表示) ××××を書き込みました ××××を書き込みました ××××は書き込みできません SPACEキーでつづき	
SPACEキーでメニュー画面にもどります	

GP-COMメニュー画面から「画面ファイルの書き込み」を選び を入力します。

書き込みたいファイル番号と を入力します。

ファイル番号1から1299までを書き込みたい場合は1,1299

次にタイトルと保存ファイル名を入力します。

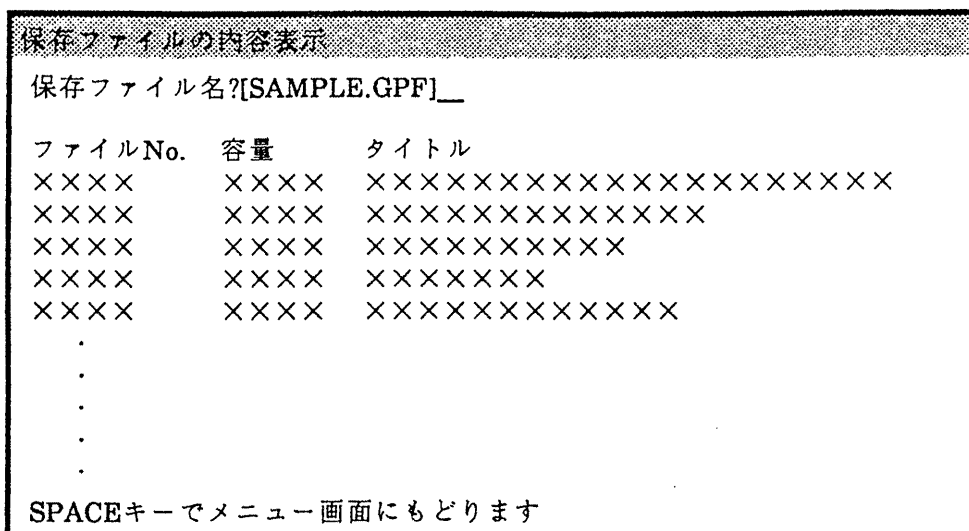
GP410からの応答として書き込んだファイル番号を出力します。


- ・ だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。
- ・ 保存ファイル名には、ドライブ名、ディレクトリ名を指定できます。指定しなかった場合は、カレント(現在の)ディレクトリを指定したことになります。(保存ファイル名、タイトルについては本書「6.用語」を参照ください)
- ・ すでにGP410のメモリーカード上に同じファイル番号が存在する場合はオーバーライトします。


ファイル番号	画面の種類
1 ~ 255	ベース画面
300 ~ 699	ライブラリー画面
700 ~ 999	マーク
1000 ~1199	折れ線グラフ画面
1200 ~1299	アラームメッセージ

■保存ファイルの内容表示


パソコン側の保存ファイルの内容をすべて表示します。
ファイルの容量はバイト数で表示されます。



GP-COMメニュー画面から「保存ファイルの内容表示」を選び  を入力します。

表示したいファイル名と  を入力します。

GP410からの応答としてファイル番号などを出力します。

- ・  だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。
- ・保存ファイル名には、ドライブ名、ディレクトリ名を指定できます。指定しなかった場合は、カレント(現在の)ディレクトリを指定したことになります。(保存ファイル名については、本書「6.用語」をご参照ください)
- ・ここでは無条件に保存ファイルの内容をすべて表示します。
したがって、表示するファイル番号の範囲は指定できません。

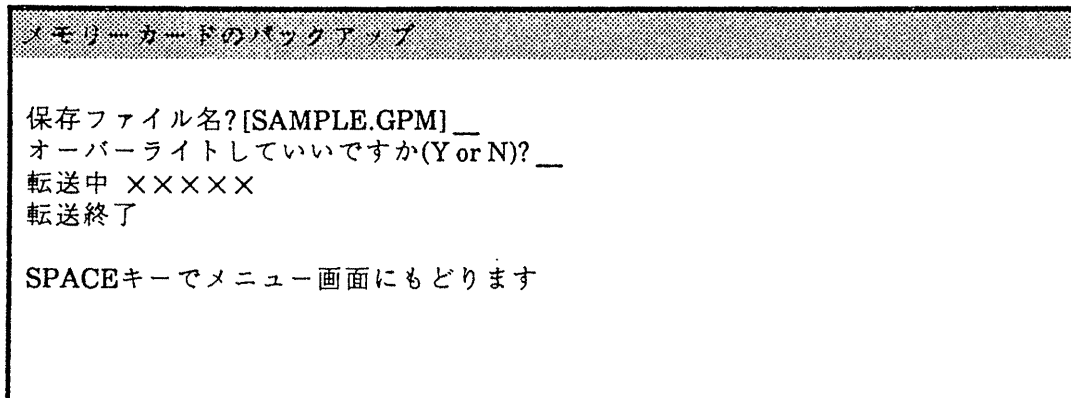
ファイル番号	画面の種類
1 ~ 255	ベース画面
300 ~ 699	ライブラリー画面
700 ~ 999	マーク
1000 ~1199	折れ線グラフ画面
1200 ~1299	アラームメッセージ

■メモリーカードのバックアップ(GP410→パソコン)

GP410に挿入されているメモリーカードの全内容を一括でバックアップするときに使用します。画面データをROM化する場合に、この操作を選んでください。

この方法で一括に読み出したデータは、ファイル単位には扱えません。

ファイル単位で読み出したい場合は、画面ファイルの読み出し操作「画面ファイルの読み込み」を選択し、実行してください。



GP-COMメニュー画面から「メモリーカードのバックアップ」を選び を入力します。

保存ファイル名と を入力し、次に「YES」に対応する「Y」を選びます。転送終了後、「転送終了」のメッセージを表示します。

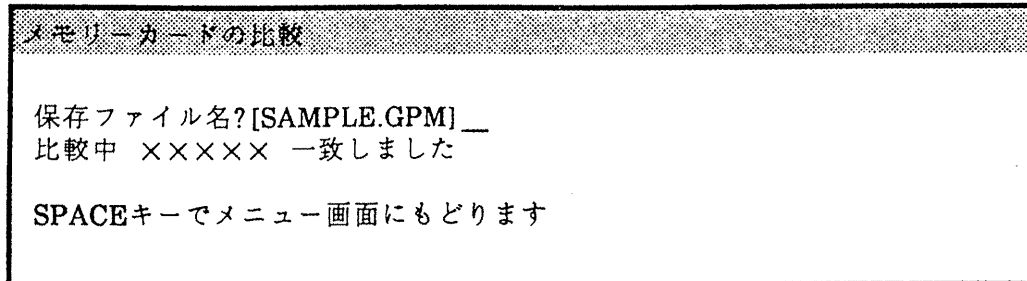
・ だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。

・保存ファイル名には、ドライブ名、ディレクトリ名を指定できます。指定しなかった場合は、カレント(現在の)ディレクトリを指定したことになります。(保存ファイル名については、本書「6.用語」をご参照ください)

ファイル番号	画面の種類
1 ~ 255	ベース画面
300 ~ 699	ライブラリー画面
700 ~ 999	マーク
1000 ~ 1199	折れ線グラフ画面
1200 ~ 1299	アラームメッセージ

■メモリーカードの比較

GP410に挿入されているメモリーカードの内容とバックアップファイルの内容が比較されます。



GP-COMメニュー画面から「メモリーカードの比較」を選び を入力します。

次に保存ファイル名と を入力します。

「比較中 ××××× 一致しました」のメッセージを表示します。

・ だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。

・保存ファイル名には、ドライブ名、ディレクトリ名を指定できます。指定しなかった場合は、カレント(現在の)ディレクトリを指定したことになります。(保存ファイル名については、本書「6.用語」をご参照ください)

■メモリーカードのリストア(パソコン→GP410)

GP410のメモリーカードのバックアップ操作によってバックアップしたデータをリストア(読み出し)時に使用します。

データ量がメモリーカードの容量を超えたときは、オーバーしたデータは無視されます。また転送データが短い場合は、メモリーカードの残った領域には何も書き込まれません。

データを転送する前に、あらかじめデータ量(データ容量)を確認し、メモリーカードを初期化しておいてください。

メモリーカードのリストア

保存ファイル名?[SAMPLE.GPM]
以前のデータは失われます

オーバーライトしていいですか(Y or N)?_
 転送中 XXXXX

SPACEキーでメニュー画面にもどります

GP-COMメニュー画面から『メモリーカードのリストア』を選び を入力します。

保存ファイル名と を入力し、次に「YES」に対応する「Y」を選びます。

- ・ だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。
- ・ 転送中のデータ量は16進数で表示します。
- ・ 保存ファイル名には、ドライブ名、ディレクトリ名を指定できます。指定しなかった場合は、カレント(現在の)ディレクトリを指定したことになります。(保存ファイル名については、本書「6.用語」をご参照ください)

■ HEXフォーマットへの変換

メモリーカードの読み出し操作によってバックアップしたデータを、インテル拡張HEXフォーマットのデータファイルに変換するときに使用します。

画面ファイルの読み出し操作によってバックアップしたデータは、HEXフォーマットに変換できません。(ファイル単位のHEXフォーマットはできません)

インテル拡張HEXフォーマットのサイズ(1Kバイト単位)は、ROMライタのバッファサイズなどに対応したデータサイズを設定してください。保存ファイルのデータ量が設定サイズを超えたときは、再度HEXファイル名の入力待ち状態となります。

ROMライタ(PKW-1100)でデータをEPROMカード(GP415-BE64/128/256)に書く場合は、データサイズを64Kbyteにしてください。

128Kbyteのカードの場合、2つのHEXファイルを作ります。

HEXファイル名は、各々別の名前にしてください。

HEXフォーマットへの変換

保存ファイル名?[SAMPLE.GPM] __
 サイズ(K Byte)? [64] __
 HEXファイル名?[SAMPLE.HEX] __
 オーバーライトしていいですか(Y or N)? __
 転送中 XXXXXX
 HEXファイル名?[SAMPLE.HEX] __
 オーバーライトしていいですか(Y or N)? __
 転送中 XXXXXX
 .
 .
 .

SPACEキーでメニュー画面にもどります

・データの転送中は、転送データ数を100HEXバイト単位で表示します。

■ HEXファイルの転送

インテル拡張HEXフォーマットのファイルをROMライターに転送します。

出力装置の指定は、CON(ディスプレイ)、AUX(シリアル入出力)、PRN(パラレル入出力)のいずれかを指定します。

HEXファイルの転送
HEXファイル名?[SAMPLE.HEX] _
出力装置(AUX,PRN)?[AUX] _
転送中 ×××××
SPACEキーでメニュー画面にもどります

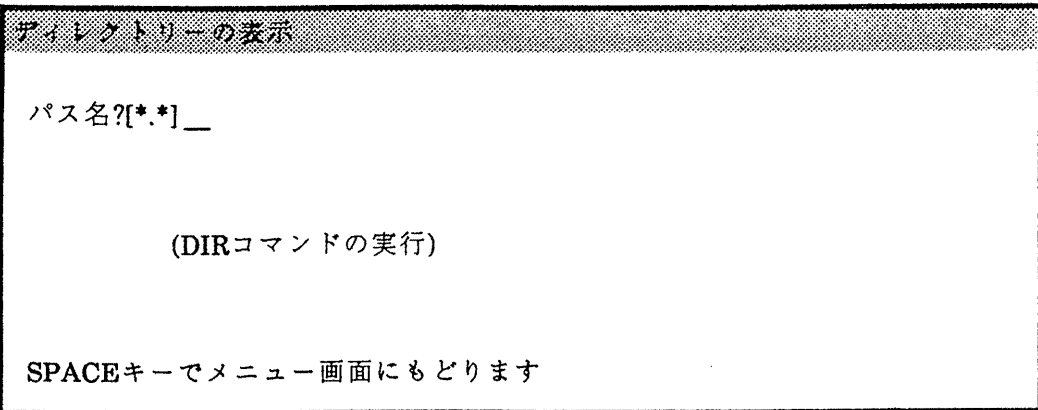
・ だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。

画面データをROM化する場合は、EPROMカード(GP415-BE64/128/256)とROMライター(PKW-1100)とROMライターアダプタ(BA512-A)が必要です。

■ ディレクトリーの表示

MS-DOSのディレクトリーを表示します。

DIRコマンドが実行されます。




■ SIOの設定

シリアル通信(RS-232C)の設定を行います。

MS-DOSのSPEEDコマンドが呼び出されて実行されます。

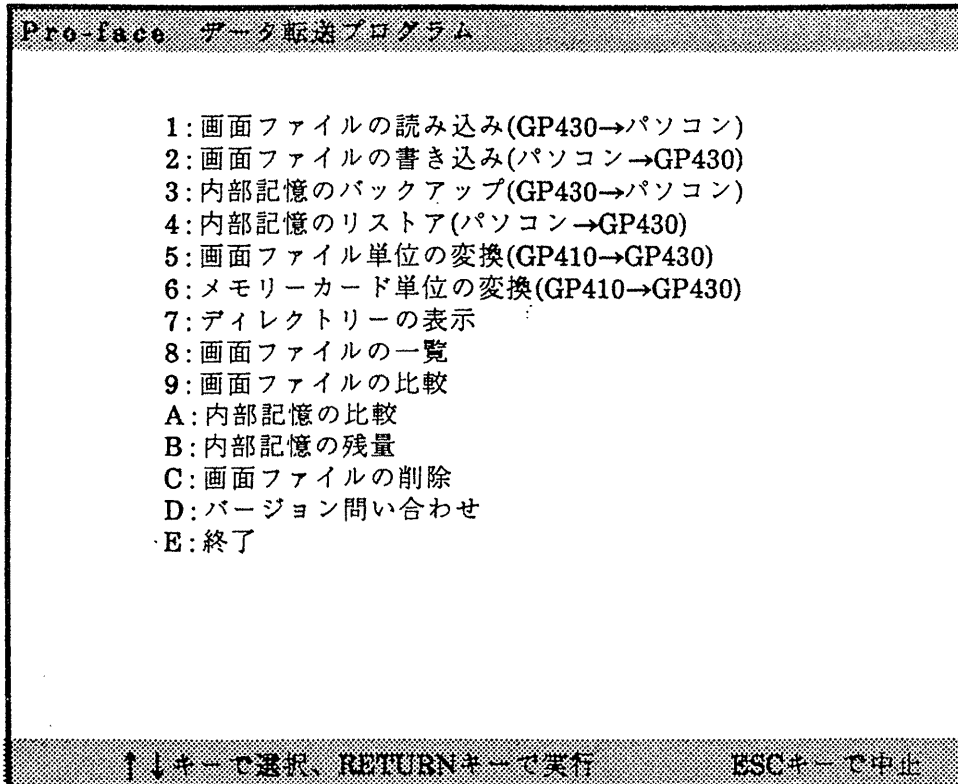
SIOの設定	
SPEEDコマンドが実行されます.GPと同じ設定にしてください	
ポート番号:	R0
ボーレート:	9600,4800,2400,1200,600,300
キャラクタ長:	B8(8ビット),B7(7ビット)
パリティチェック:	PN(パリティチェックなし),PE(偶数),PO(奇数)
ストップビット数:	S1(1ビット),S2(2ビット)
Xパラメータ:	XON(XON/XOFF制御を行う),NONE(XON/XOFF制御をしない)
SPEED [R0 9600 B8 PN S1 XON] _	
(SPEEDコマンドの実行)	

 だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。


・起動時には、デフォルト値で初期設定されています。

13.GP-COM II メニュー画面

起動メニューでGP-COM II 選択によってメニュー画面を表示します。
GP430の画面データのバックアップ処理を行います。



起動メニューでGP-COM II 選択によってメニュー画面を表示します。
カーソル(上下の矢印キー↑↓)を動かし、実行させたいメニューを選択します。選択されたメニューは反転表示されます。(番号入力時は選択実行)

 の入力で選択されたメニューが実行されます。

ESCキーを押すと実行中のメニューを中止します。(各メニュー共通)

14.GP-COMII メニュー

これより、GP-COMII のプログラムの内容について説明します。

([]内はデフォルト値をさします)

■ 終了

起動画面に戻ります。

■画面ファイルの読み込み(GP430→パソコン)

1. 画面ファイルの読み込み (GP430→パソコン)

ファイル属性?[*]__
 ファイル番号?[1,8999]_____
 ディレクトリ名?[A:¥]__
 PLCタイプを選択して下さい
 (M: M to M, 0: SYSMAC C, 1: MELSEC AxN)
 (2: NEWサテライト, 3: FA-500, 4: MICREX - F)
 (5: TOYOPUC PC1, 6: TOYOPUC PC2, 7: MEWNET)
 (8: HIDIC, 9: MEMOCOM GL40/60, A: MEMOCOM GL20)
 (B: MELSEC AxA, C: KOSTAC, D: SYSMAC CV)
 (E: EX2000, F: EX100, G: HIZAC)
 (H: MELSEC FX, I: MELSEC F)

PLCTYPE = _____
 同一ファイル番号の場合はオーバーライトされます _____
 開始していいですか (Y or N)? _____

ベース ××××番を読み込みました
 ベース ××××番を読み込みました
 ベース ××××番を読み込みました
 マーク ××××番を読み込みました
 トレンド××××番を読み込みました

SPACEキーでメニュー画面に戻ります。

GP430内部記憶内の画面データをファイル単位に読み込みます。

1画面データが1つのバックアップファイルになります。

ファイルの拡張子は各PLCタイプ別に

メモリtoメモリ	×××.DLM	SYSMAC C	×××.DL0
MELSEC AxN	×××.DL1	NEWサテライト	×××.DL2
FA - 500	×××.DL3	MICREX - F	×××.DL4
TOYOPUC PC1	×××.DL5	TOYOPUC PC2	×××.DL6
MEWNET	×××.DL7	HIDIC	×××.DL8
MEMOCOM GL40/60	×××.DL9	MEMOCOM GL20	×××.DLA
MELSEC AxA	×××.DLB	KOSTAC	×××.DLC
SYSMAC CV	×××.DLD	EX2000	×××.DLE
EX100	×××.DLF	HIZAC	×××.DLG
MELSEC FX	×××.DLH	MELSEC F	×××.DLI

となります。

■ 内部記憶のバックアップ(GP430→パソコン)


GP430の内部記憶の全内容を一括でバックアップするときに使用します。

2: 内部記憶のバックアップ (GP430→パソコン)

保存ファイル名?[SAMPLE.MRM] __
 同じファイル名があります
 オーバーライトしていいですか(YorN)? __

転送中 ××××
 転送終了

SPACEキーでメニュー画面に戻ります。

 だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。

■画面ファイルの書き込み(パソコン→GP430)

GP430の内部記憶に画面データをファイル単位で書き込みます。

3:画面ファイルの書き込み (パソコン→GP430)

ファイル属性?[*]__
 ファイル番号?[1,8999]_____
 ディレクトリ名?[A:¥]__
 PLCタイプを選択して下さい
 (M:M to M, 0:SYSMAC C, 1:MELSEC AxN)
 (2:NEWサテライト, 3:FA-500, 4:MICREX-F)
 (5:TOYOPUC PC1, 6:TOYOPUC PC2, 7:MEWNET)
 (8:HIDIC, 9:MEMOCOM GL40/60, A:MEMOCOM GL20)
 (B:MELSEC AxA, C:KOSTAC, D:SYSMAC CV)
 (E:EX2000, F:EX100, G:HIZAC)
 (H:MELSEC FX, I:MELSEC F)

PLCTYPE = _____
 同一ファイル番号の場合はオーバーライトされます _____
 開始していいですか (Y or N)? _____

ベース ××××番を書き込みました
 ベース ××××番を書き込みました
 ベース ××××番を書き込みました
 マーク ××××番を書き込みました
 トレンド××××番を書き込みました

SPACEキーでメニュー画面に戻ります。

↓ だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。

GP410ファイル	GP430
ベース画面 1~ 255	B1~B8999
ライブラリー画面 300~ 699	
マーク 700~ 999	M1~M8999
折れ線グラフ画面 1000~ 1199	T1~T8999
アラームメッセージ 1200~ 1299	A1~A8999
テンキー画面 _____	K1~K8999

【注意】

GPへのファイル転送は、通常は1ファイルあたり2~3秒ですが、2分程度かかる場合があります。これはGP内部記憶の最適化のため、自動的にデータ再配置をしています。

■内部記憶のリストア(パソコン→GP430)

GP430の内部記憶からパソコンへバックアップしたデータや、GP410のデータを「メモリーカード単位変換」を行って作成したデータをGP430の内部記憶にリストア(読み出し)時に使用します。

4. 内部記憶のリストア (パソコン→GP430)

保存ファイル名?[SAMPLE.MRM]__
以前のデータは失われます
オーバーライトしていいですか(Y or N)? __

転送中 ××××
転送終了

SPACEキーでメニュー画面に戻ります。

◀だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。

---【注意】---

データを転送する前に、内部記憶を初期化しておいてください。
転送時間は2~3分です。

■画面ファイル単位の変換(GP410→GP430)

GP410の画面ファイル単位データをGP430の画面ファイル単位データに変換します。

5.画面ファイル単位の変換 (GP410→GP430)

GP410ファイル名?[SAMPLE.GPF]
 ディレクトリ名?[A: ¥]
 PLCタイプを選択して下さい
 (M: M to M, 0: SYSMAC C, 1: MELSEC A_xN)
 (2: NEWサテライト, 3: FA-500, 4: MICREX-F)
 (5: TOYOPUC PC1, 6: TOYOPUC PC2, 7: MEWNET)
 (8: HIDIC, 9: MEMOCOM GL40/60, A: MEMOCOM GL20)
 (B: MELSEC A_xA, C: KOSTAC, D: SYSMAC CV)
 (E: EX2000, F: EX100, G: HIZAC)
 (H: MELSEC FX, I: MELSEC F)

PLCTYPE= _____

1を変換しました ファイル名はB1.DL0です

GPのファイルデータ終了(ESCキーで終了)

GP410の画面ファイル単位データの保存ファイル名を入力してください。

次に保存ファイルのデータの対象PLC名を番号で入力してください。

GP-PRO/98にて作成した画面ファイルを変換する場合、ワイルドカードを使用することができます。(ワイルドカード(*)は複数のファイルをまとめて指定する場合、使用します)

例) *.L00

1.L00から 1299.L00の画面ファイルが変換されます。

変換後のGP430の画面ファイルデータ名は各PLCタイプ別に

メモリtoメモリ	“画面ファイル番号.DLM”
SYSMAC C	“画面ファイル番号.DL0”
MELSEC AxN	“画面ファイル番号.DL1”
NEWサテライト	“画面ファイル番号.DL2”
FA-500	“画面ファイル番号.DL3”
MICREX - F	“画面ファイル番号.DL4”
TOYOPUC PC1	“画面ファイル番号.DL5”
TOYOPUC PC2	“画面ファイル番号.DL6”
MEWNET	“画面ファイル番号.DL7”
HIDIC	“画面ファイル番号.DL8”
MEMOCOM GL40/60	“画面ファイル番号.DL9”
MEMOCOM GL20	“画面ファイル番号.DLA”
MELSEC AxA	“画面ファイル番号.DLB”
KOSTAC	“画面ファイル番号.DLC”
SYSMAC CV	“画面ファイル番号.DLD”
EX2000	“画面ファイル番号.DLE”
EX100	“画面ファイル番号.DLF”
HIZAC	“画面ファイル番号.DLG”
MELSEC FX	“画面ファイル番号.DLH”
MELSEC F	“画面ファイル番号.DLI”

になります。

GP410の画面データの中に複数の画面ファイルのデータが入っているときは1つ1つに分割変換されます。

変換した結果、ファイルのデータサイズは変わります。

変換が終了すると、保存ファイル名の入力待ちとなります。

作業を終了する時はESCキーを入力してください。

GP410ファイル	GP430
ベース画面 1 ~ 255	B1 ~ B255
ライブラリー画面 300 ~ 699	B300 ~ B699
マーク 700 ~ 999	M700 ~ M999
折れ線グラフ画面 1000 ~ 1199	T1000 ~ T1199
アラームメッセージ 1200 ~ 1299	A1200 ~ A1299

【注意】

- 画面ファイル単位の変換では折れ線グラフ画面ファイル(1000~1199)は変換できません。変換は、メモリーカード単位で行ってください。
- 画面ファイルの変換には、以下の注意点があります。このような場合はGP410の画面ファイルの修正/補正を行ってください。
 - ・表示属性が黒色+プリンクの場合、白色+プリンクに変更します。
 - ・円弧、扇形の描画高速化にともないGP410画面ファイルの座標データ(始点, 終点, 中継点)の最適化を行います。そこで、描画上のズレが生じることがあります。
 - ・GP410で作画したファイルをGP430で表示した場合、色指定によっては塗り込みが表示されない場合があります。この場合、塗り込みの色設定をGP PROで白、赤、紫、黄のどれかの色に変更してください。
- GP410で作成されたlタグ,mタグのタグネームはGP430ではl,mの前にL,Mが付加されています。

■メモリーカード単位の変換(GP410→GP430)

GP410のメモリーカード単位データをGP430の内部記憶単位データに変換します。

6.メモリーカード単位の変換 (GP410→GP430)

保存ファイル名?[SAMPLE.GPM]__
 変換先保存ファイル名?[SAMPLE.MRM]__
 変更してもいいですか(Y or N)?__

1を変換しました
 2を変換しました
 3を変換しました
 7を変換しました
 12を変換しました

SPACEキーでメニュー画面に戻ります。

- ・保存ファイル名(GP410)、変換先保存ファイル名(GP430)のファイル名を入力してください。
- ・変換したファイル番号を表示します。
変換した結果、ファイルのデータサイズは変わります。

【注意】

- ・画面ファイルの変換には、以下の注意点があります。このような場合はGP410の画面ファイルの修正/補正を行ってください。
- ・表示属性が黒色+ブリンクの場合、白色+ブリンクに変更します。
- ・円弧、扇形の描画高速化にともないGP410画面ファイルの座標データ(始点, 終点, 中継点)の最適化を行います。そこで、描画上のズレが生じることがあります。
- ・GP410で作画したファイルをGP430で表示した場合、色指定によっては塗り込みが表示されない場合があります。この場合、塗り込みの色設定をGP PROで白、赤、紫、黄のどれかの色に変更してください。
- ・GP-COM II V1.01より前のバージョンで変換された折れ線グラフ画面はGP-PRO II /98で修正することができません。再度GP-COM II V1.01にて画面データ変換を行ってください。
- ・GP410で作成されたlタグ,mタグのタグネームはGP430ではl,mの前にL,Mが付加されています。


■ディレクトリーの表示

12.GP-COMメニューの「■ディレクトリーの表示」をご参照ください。

■画面ファイルの一覧

GP430の内部記憶内の画面データをファイル単位に表示します。
表示するファイル属性と番号の範囲を指定することができます。
指定された範囲内に存在するファイルはすべて表示されます。

B. 画面ファイルの一覧			
ファイル属性?[*]	__		
ファイル番号?[1, 8999]	_____		
B71	4522	M TAG	MAX
B72	2452	M TAG	ZOKUSEI
B73	484	FILE	MAX MIN
B74	4416	m TAG	MAX
B75	2518	m TAG	ZOKUSEI
B76	414	m TAG	ON OFF CHECK
B77	3012	K TAG	
B78	1764	SYSTEM	C TAG
B79	1552	SYSTEM	TEN KEY
B80	560	filecheck2	
B81	458	FILE	MAX MIN CHECK
B82	618	FILE	MAX MIN CHECK
B83	388	disp	max min
B161	1736	GAMEN	CHANGE
B162	5998	W TAG	1
B163	5980	W TAG	2
B164	5980	W TAG	3
B165	5984	T TAG	R1
B166	5984	T TAG	R2
SPACEキーでつづき			

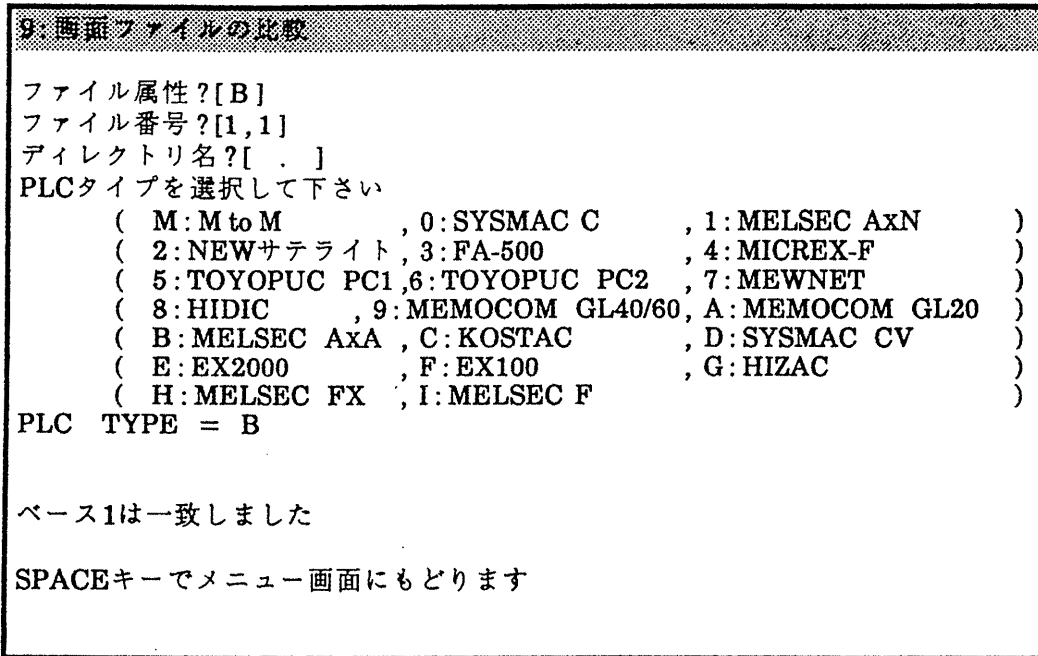
- ・  だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。

ファイルの容量はバイト数で表示され、すべてのリストが1画面に表示しきれない場合は「SPACEキーでつづき」のメッセージを表示し、SPACEキーでつづきのリストを表示します。

GP410ファイル		GP430
ベース画面	1~ 255	B1~B8999
ライブラリー画面	300~ 699	
マーク	700~ 999	M1~M8999
折れ線グラフ画面	1000~ 1199	T1~T8999
アラームメッセージ	1200~ 1299	A1~A8999
テンキー画面	_____	K1~K8999

■画面ファイルの比較

GP430の内部記憶内に登録されている画面データと保存ファイルをファイル単位で比較します。
比較するファイル属性と番号の範囲を指定することができます。



比較したいファイル属性とファイル番号を入力します。
ファイル番号1から1299までを比較したい場合は1,1299 と入力します。
 だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたことになります。
-保存ファイル名には、ドライブ名、ディレクトリ名を指定できます。指定しなかった場合は、カレント(現在の)ディレクトリを指定したことになります。

GP410ファイル	GP430
ベース画面 1~ 255	B1~B8999
ライブラリー画面 300~ 699	
マーク 700~ 999	M1~M8999
折れ線グラフ画面 1000~ 1199	T1~T8999
アラームメッセージ 1200~ 1299	A1~A8999
テンキー画面 —————	K1~K8999

■ 内部記憶の比較

GP430の内部記憶内に登録されている画面データとバックアップファイルの内容が比較されます。

A: 内部記憶の比較	
GP430保存ファイル名? [SAMPLE.MRM]	
比較中	80000
一致しました	
SPACEキーでメニュー画面にもどります	

- ・ だけを入力すると、[]内のデフォルト値が指定されたこととなります。
- ・ 保存ファイル名には、ドライブ名、ディレクトリ名を指定できます。指定しなかった場合は、カレント(現在の)ディレクトリを指定したことになります。

■内部記憶の残量

GP430の内部記憶の残りバイト数をバンク単位で表示します。

B: 内部記憶の残量	
バンク番号?[0,7]	
バンク No.	残量
0	2332
1	178
2	3522
3	53364
4	59526
5	59526
6	59526
7	59526

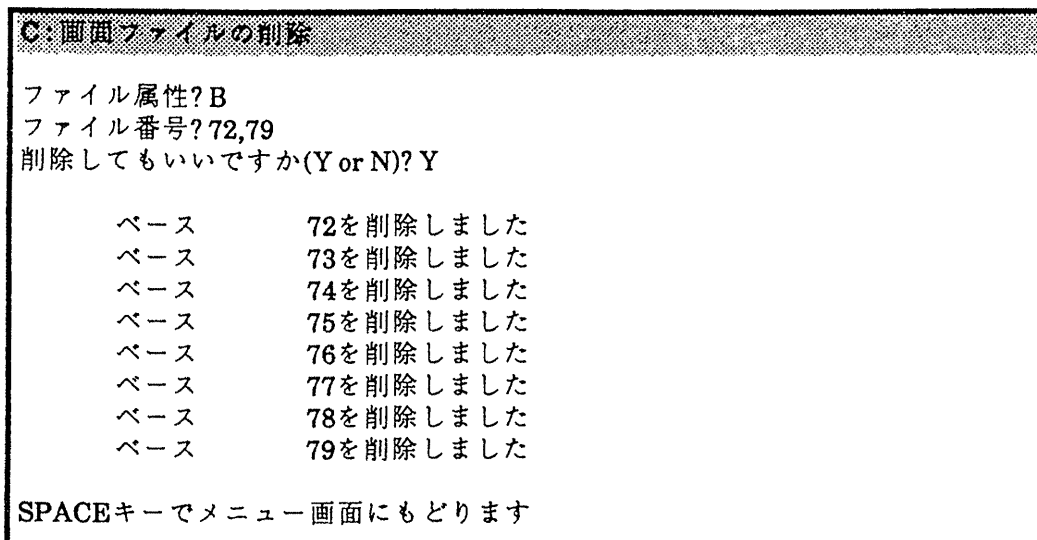
SPACEキーでメニュー画面にもどります

画面データを記憶するメモリは59526バイト単位でバンク管理されており、その使用状況を表示します。

内部記憶には0から7までのバンクが存在します。

■画面ファイルの削除

GP430の内部記憶内に登録されている画面データをファイル単位で削除します。
 削除するファイル属性と番号の範囲を指定することができます。



削除したいファイル属性とファイル番号を入力します。

ファイル番号100を削除したい場合は100

ファイル番号72から79までを削除したい場合は72,79

次に「YES」に対応する「Y」を選びます。

GP430からの応答として削除したファイル番号を出力します。

- ・「YorN」の入力は、大文字、小文字とも有効です。
- ・「N」を入力するとメニュー画面にもどります。
- ・削除途中でESCキー入力すると実行を中止します。

GP410ファイル		GP430
ベース画面	1~ 255	B1~B8999
ライブラリー画面	300~ 699	
マーク	700~ 999	M1~M8999
折れ線グラフ画面	1000~ 1199	T1~T8999
アラームメッセージ	1200~ 1299	A1~A8999
テンキー画面	—————	K1~K8999

■バージョン問い合わせ

GP430のROMバージョンを表示します。

D: バージョン問い合わせ	
機種名	: GP430
バージョン	: V×.××
日付	: Fri Mar 4 20:00:00 1992
SPACEキーでメニュー画面にもどります	

SPACEキーでメニュー画面にもどります。

GP-COMII 画面データバックアップソフト オペレーションマニュアル

1991年 12月 4日 初版発行
1993年 7月 28日 第4版発行

発行 株式会社 デジタル
〒 559
大阪市住之江区南港東8-2-52
TEL (06) 613-1101 (代)
FAX (06) 613-5888

落丁・乱丁は弊社にてお取り替えいたします。

© (株) デジタル Dec. 1991

PRINTED IN JAPAN